

## 特別講演

主催 国際医療センター 包括的がんセンター 教育カンファレンス

企画教室 国際医療センター 口腔外科

平成29年6月26日 於 国際医療センター 大会議室

## 副作用を含めた放射線療法・化学療法の推進 ～がん研究会有明病院で行っている口腔機能管理～

富塚 健

(公益財団法人 がん研究会 有明病院 歯科)

### はじめに

がん治療における口腔機能管理(いわゆる口腔ケアを含む)の有用性については、歯科以外の職種においても認識は高まりつつある。そのきっかけの一つは、特別養護老人ホームにおける専門的口腔ケアの肺炎発症を抑制効果に関する報告と考えられる。その後、がん治療に関してはとくに食道がんや頭頸部がんにおける口腔ケアの術後肺炎や創部感染の発症の抑制効果や化学療法時の口腔ケアの口腔粘膜炎症抑制効果などが報告され、現在は「周術期口腔機能管理」として、手術、化学療法、放射線療法、緩和医療における口腔機能管理が歯科保険に収載されている。

しかしながら、がん治療における現状の口腔機能管理は施設によるばらつきがみられ、これは、施設ごとの体制や人員の問題、医療者の考え方などにもよると考えられる。当科はがん専門病院の歯科として、1. 口腔細菌のコントロール、2. 口腔有害事象の予防、症状緩和(とくに粘膜障害の対処)、3. 経口摂取のサポートを柱として、がん治療における口腔機能管理を行っている。ここでは化学療法および頭頸部放射線療法における口腔機能管理について簡単に述べる。

### 化学療法における口腔機能管理

化学療法に伴う口腔有害事象では、治療中に生じる口腔粘膜炎と骨髄抑制期の慢性菌性感染巣の急性化にとくに注意を要する。前者の口腔粘膜炎は重症化すると経口摂取が妨げられ、患者のQOLを損なうことになるが、同時に潰瘍の形成が遷延化すると口腔細菌の感染の場となり得る。また、重度の辺縁性菌周炎や慢性根尖性菌周炎などが骨髄抑制期に急性化すると、発熱性好中球減少症の原因となる場合もあり、可能な限り化学療法開始前にこれらのリスクを低減させるための歯科処置を行っておく。

治療中であるか否かにかかわらず、口腔内の細菌叢を乱

さないためには適切な口腔のセルフケアがなされなければならない。とくに骨髄抑制期の口腔細菌のコントロールはその重要度がより増すが、同時に口腔粘膜には外傷を加えないように留意して、適切なツールと方法で行うことが重要である。セルフケアのみならず、治療開始前から歯科専門職による口腔機能管理を行うことで、細菌増殖の要因を取り除き、口腔粘膜を障害し、粘膜炎を増悪させる因子(歯や歯冠修復物の不適合、義歯の不適合など)を除去しておく。経口摂取のサポートの観点から、義歯の調節や取り扱い方の指導も重要である。

### 頭頸部放射線療法における口腔機能管理

頭頸部放射線療法(以下、放射線療法)に伴う口腔有害事象は治療中のものと治療終了後に生じるものに大別されるが、治療開始にあたって、治療終了後の晩期障害までを見据えた口腔機能管理が求められる。

口腔粘膜炎と口腔乾燥は照射開始から経時的に重篤化し、とくに治療の対象が口腔や上咽頭、中咽頭領域で、化学放射線療法の場合には線量の増加に伴って患者の苦痛も極めて大きくなる。これは化学療法においては、これらの有害事象が一過性であったり、薬剤によっては症状が軽微であったりすることと大きく異なっている。基本的な口腔機能管理は化学療法の際と変わらないが、消炎鎮痛剤、麻薬性鎮痛剤の服用や、局所麻酔薬含有の含嗽剤、口腔用保湿剤を積極的に使いながら、鎮痛と口腔粘膜の保護を図る。なお、治療による唾液腺細胞のダメージの程度によっては、口腔乾燥はかなり長期化する。この場合には、継続的な唾液分泌低下の補償、口腔粘膜の保護も必要である。また、味覚障害も照射中から生じ、回復には4～6カ月程度を要するといわれているが、口腔乾燥の状態とも関連して遷延化することも少なくない。このため、栄養に関するサポートも重要性を増す。

照射終了後は唾液分泌量の低下に伴う多発う蝕、抜歯等の観血処置にはとくに注意しなければならない。治療開始前からフッ素塗布等を行い、再石灰化に必要なミネラルを補うペーストを用いた正しいセルフケアを励行することでう蝕の発生、進行を可及的に抑制する。また、高線量域の抜歯を極力避けられるように、治療開始前から対策をたてておく。

#### おわりに

がん治療における口腔機能管理は、治療の完遂、患者のQOL維持のために重要な支持療法の一つである。患者にとっては、ある程度均てん化されたものが、あまり場所を選ばず享受できることが望ましい。そのためには、口腔機能管理の意義をより多くの方にご理解いただくこと、口腔機能管理の身近な受け皿が必要となる。

(文責 坂田康彰)